

## 第 2 学 年 学 級 活 動 指 導 案

日 時 平成 18 年 11 月 15 日 (水)

生 徒 2 年 A 組 男子 19 名

女子 18 名

計 17 名

授業者 高橋 浩幸

### 1 題材名 「上級学校の種類と特徴」

### 2 題材設定の理由

#### (1) 題材について

生徒たちはこれまで、職場体験学習を通して、職業そのものに対する知識を学習するとともに、社会人としての心構えや資質についても学んできた。初めて出会った大人たちの中で精神的なプレッシャーを感じながらも、与えられた仕事を成し遂げた達成感と充実感を得ることができた。同時に、一人の大人として接してもらい、大人としての対応ができたことに自立の喜びを感じてきたようである。この体験学習は、いつの日か自立していく自分を思い描きながら、人生の先を見通すきっかけとなったことは言うまでもない。しかし、中学校卒業後、早急に社会に出て働く必要性のない生徒たちにとってこの職場体験は、進路選択を現実的に捉える機会とはなりにくかったのも事実である。

1 年後に受験を控え、「進学」と言う進路に対する意識は少しずつ高くなっている。現在の生徒たちにとっての現実的な進路学習とは、進学に対する目的をはっきりさせ、自分の特性や将来の見通しとの係わりで、進学希望校を具体的に検討していく方法を身に付けさせることにあると考える。昨今、批判の対象となっている進路指導を狭義にとらえた進学指導も、生徒たちの人生設計や自己分析との係わりで具体的に検討する方法を身に付けさせることで、重要な進路指導になりうると考える。

社会の構造もよく分からず生活している生徒たちにとって、上級学校の種類を学習することは現在の生徒が接する最も近い社会のシステムを学習することであり、それぞれの学校の特徴を知ることは、自分のニーズを自分自身に問いかけながらより自分に合ったものを選択していく過程を経験することにつながる。本題材は、今まで生徒が学習してきた「働くことの目的と意義」の上に立ち、自分の将来を見通しながら現実的に人生を選択していくための実践的な力を養う教材となるものである。

#### (2) 生徒の実態

略

### (3) 指導の構想

上記のような不安を軽減するためにも、生徒たちが進路選択に対してどのような不安や悩みを持っているかを共有する場面を設定し、さらにそれを解決するためにはどのような手立てが必要と思われるかを話し合う場面も設定したい。このような過程を通して、個々の進路選択という問題に対して、学級のみならず力を合わせて取り組んで行くと言う姿勢を作って行きたい。また、個々の願いを共有することで、お互いの学習を尊重し合う雰囲気を作ることが学級活動における進路学習の中で最も大切なことの一つであると考えられる。

本校の研究に係わり「将来をたくましく生き抜き、自己実現を目指す」生徒の姿を、自分の目標実現に向けて具体的に努力する生徒としてイメージした。本題材においては、自分が進路を選択するためにはどんな情報が必要であるかを明らかにし、それをどのようにして調べることができるかを考え、その結果を既知情報と関わらせて現実的に判断していく力を持った生徒を育成したいと考えている。この過程は、「将来設計能力」「情報収集・探索能力」「意思決定能力」「人間関係形成能力」の育成に直接的につながるものである。

## 3 指導計画（全5時間）

この題材では、主に「将来設計能力」「意思決定能力」「情報収集・探索能力」「人間関係形成能力」の育成を図る。

- (1) 将来の夢や中学校卒業後の進路の見通しについて話し合う。(0.5時間) ———— (本時)  
上級学校について知りたいと思う内容について話し合う。(0.5時間)
- (2) 身近な高校についてどのように調査するか計画を立てる。(0.5時間)  
身近な高校について調査する。(1.5時間)
- (3) 調査結果を発表し合う。(2時間)

#### 【情報収集・探索能力】

さまざまな上級学校に興味を持ち、情報を収集したり、交換・共有することを通して、自分の適性との係わりを考え、さらに詳しく学習しようとする。

#### 【意思決定能力】

興味や好みだけでなく、自分の特徴、能力、適正などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に努力すべく行動を決定することができる。

#### 【将来設計能力】

将来の夢の実現に向けて、何を学びどのように自分を成長させるかを考えながら、上級学校を選択するための具体的なイメージを持つことができる。

#### 【人間関係形成能力】

他の願いや悩みを共有し、進路実現に向けてともに努力しようとする。

## 4 本時の指導

### (1) 本時のねらい

進路選択についての不安や悩みを共有しながら、共に目標実現へ向けて努力しようとする意思を確認することができる。

進学希望の理由を発表し合い、進路実現へ向けての願いを共有しあうことができる。

各自の進学希望学校決定のために必要な情報を明らかにして、どのような方法で調べることができるかを話し合うことができる。

(2) 本時の展開

段階 (時間)	学習内容	学習活動		指導上の留意点 評価
		教師の働きかけ	生徒の活動	
導入 (8分)	1 各自の将来の夢を発表する。 【発表する】  2 進路選択についての不安や悩みを発表する。 【発表する】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数名を指名し、将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを発表させる。</li> <li>事前のアンケートをもとに指名する。高校について調査することが、具体的にできる解決策の一つであることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを言うことができる。</li> <li>不安の内容やその原因を言うことができる。自分に対する悩み漠然とした不安学力に関する悩み高校についての情報不足に関する不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路計画が定まっていない生徒には、自分の進路について考えるきっかけとする。</li> <li>同様に悩んでいる人の存在を伝えて共感し合う雰囲気を作る。</li> <li>多くの生徒が高校進学を希望していることを確認し、高校について学習することの意義を確認させる。</li> </ul>
	高等学校について知りたいこと、調べたいことを話し合い、調査計画を立てよう。			
展開 (35分)	3 興味を持っている学校名を挙げ、理由を発表する。 【発表する】  4 興味を持っている学校についてどのようなことを更に知りたいか話し合う。 【話し合う】  5 どの学校について調査するかを班で話し合う。 【話し合う】	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味を持っている学校名を挙げさせ、理由を発表させる。</li> <li>進路を決定するために何を知りたいか、具体的な調査内容を話し合わせる。</li> <li>より詳しく調査できそうな学校を見つけさせる。</li> <li>発表を聞きながら、調査する学校を割り当てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味を持っている理由を具体的に言うことができる。兄が通っている。親が進める。やりたい部活がある。大学に進みたい。</li> <li>詳しく知りたいと思う事柄を班で話し合い、まとめて発表することができる。</li> <li>情報源を考えながら詳しく調査できそうな学校を発表する。親の出身校である。部活の先輩が通っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同様の意見の生徒がどれくらいいるか人数を確認しながら進める。</li> <li>ワークシートに書かせる。</li> <li>みんなで進路学習をするという意識作りのために、必要としている人のためにできるだけ詳しく調査しようとする意識を作る。</li> </ul>
	6 学習の振り返りをする。 【書く】	<ul style="list-style-type: none"> <li>数名を指名し、考えたことを発表させる。(シートに記入させる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を振り返り、考えたことを言うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の不安を共有し、共に進路を切り開いていこうとする意欲を持つことができたか。</li> </ul>

## 第 2 学 年 学 級 活 動 指 導 案

日 時 平成18年11月15日(水)

生 徒 2年B組 男子 18名

女子 17名

計 35名

指導者 臼井 俊二

### 1 題材名 「上級学校の種類と特徴」

### 2 題材設定の理由

#### (4) 題材について

生徒たちはこれまで、職場体験学習を通して、職業そのものに対する知識を学習するとともに、社会人としての心構えや資質についても学んできた。初めて出会った大人たちの中で精神的なプレッシャーを感じながらも、与えられた仕事を成し遂げた達成感と充実感を得ることができた。同時に、一人の大人として接してもらい、大人としての対応ができたことに自立の喜びを感じてきたようである。この体験学習は、いつの日か自立していく自分を思い描きながら、人生の先を見通すきっかけとなったことは言うまでもない。しかし、中学校卒業後、早急に社会に出て働く必要性のない生徒たちにとってこの職場体験は、進路選択を現実的に捉える機会とはなりにくかったのも事実である。

1年後に受験を控え、「進学」と言う進路に対する意識は少しずつ高くなっている。現在の生徒たちにとっての現実的な進路学習とは、進学に対する目的をはっきりさせ、自分の特性や将来の見通しとの係わりで、進学希望校を具体的に検討していく方法を身に付けさせることにあると考える。昨今、批判の対象となっている進路指導を狭義にとらえた進学指導も、生徒たちの人生設計や自己分析との係わりで具体的に検討する方法を身に付けさせることで、重要な進路指導になりうると考える。

社会の構造もよく分からず生活している生徒たちにとって、上級学校の種類を学習することは現在の生徒が接する最も近い社会のシステムを学習することであり、それぞれの学校の特徴を知ることは、自分のニーズを自分自身に問いかけながらより自分に合ったものを選択していく過程を経験することにつながる。本題材は、今まで生徒が学習してきた「働くことの目的と意義」の上に立ち、自分の将来を見通しながら現実的に人生を選択していくための実践的な力を養う教材となるものである。

#### (5) 生徒の実態

略

### (3) 指導の構想

上記のような不安を軽減するためにも、生徒たちが進路選択に対してどのような不安や悩みを持っているかを共有する場面を設定し、さらにそれを解決するためにはどのような手立てが必要と思われるかを話し合う場面も設定したい。このような過程を通して、個々の進路選択という問題に対して、学級のみならず力を合わせて取り組んで行くと言う姿勢を作って行きたい。また、個々の願いを共有することで、お互いの学習を尊重し合う雰囲気を作ることが学級活動における進路学習の中で最も大切なことの一つであると考えられる。

本校の研究に係わり「将来をたくましく生き抜き、自己実現を目指す」生徒の姿を、自分の目標実現に向けて具体的に努力する生徒としてイメージした。本題材においては、自分が進路を選択するためにはどんな情報が必要であるかを明らかにし、それをどのようにして調べることができるかを考え、その結果を既知情報と関わらせて現実的に判断していく力を持った生徒を育成したいと考えている。この過程は、「将来設計能力」「情報収集・探索能力」「意思決定能力」「人間関係形成能力」の育成に直接的につながるものである。

## 3 指導計画 (全5時間)

この題材では、主に「将来設計能力」「意思決定能力」「情報収集・探索能力」「人間関係形成能力」の育成を図る。

- |  |   |    |
|--|---|----|
| (1) 将来の夢は中学校卒業後の進路の見通しについて話し合う。(0.5時間) | } | 本時 |
| 上級学校について知りたいと思う内容について話し合う。(0.5時間)      |   |    |
| (2) 身近な高校についてどのように調査するか計画を立てる。(0.5時間)  |   |    |
| 身近な高校について調査する。(1.5時間)                  |   |    |
| (3) 調査結果を発表し合う。(2時間 本時1時間目)            |   |    |

### 【情報収集・探索能力】

さまざまな上級学校に興味を持ち、情報を収集したり、交換・共有することを通して、自分の適性との係わりを考え、さらに詳しく学習しようとする。

### 【意思決定能力】

興味や好みだけでなく、自分の特徴、能力、適正などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に努力すべく行動を決定することができる。

### 【将来設計能力】

将来の夢の実現に向けて、何を学びどのように自分を成長させるかを考えながら、上級学校を選択するための具体的なイメージを持つことができる。

### 【人間関係形成能力】

他の願いや悩みを共有し、進路実現に向けてともに努力しようとする。

## 4 本時の指導

### (1) 本時のねらい

進路選択についての不安や悩みを共有しながら、共に目標実現へ向けて努力しようとする意思を確認することができる。

進学希望の理由を発表し合い、進路実現へ向けての願いを共有しあうことができる。

各自の進学希望学校決定のために必要な情報を明らかにして、どのような方法で調べることができるかを話し合うことができる。

(2) 本時の展開

段階 (時間)	学習内容	学習活動		指導上の留意点 評価
		教師の働きかけ	生徒の活動	
導入 (8分)	<p>1 各自の将来の夢を発表する。 【発表する】</p> <p>2 進路選択についての不安や悩みを発表する。 【発表する】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒数名を指名し、将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを発表させる。</li> <li>事前のアンケートをもとに指名する。高校について調査することが、具体的にできる解決策の一つであることに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを言うことができる。</li> <li>不安の内容やその原因を言うことができる。自分に対する悩み漠然とした不安学力に関する悩み高校についての情報不足に関する不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路計画が定まっていない生徒には、自分の進路について考えるきっかけとする。</li> <li>同様に悩んでいる人の存在を伝えて共感し合う雰囲気を作る。</li> <li>多くの生徒が高校進学を希望していることを確認し、高校について学習することの意義を確認させる。</li> </ul>
高等学校について知りたいこと、調べたいことを話し合い、調査計画を立てよう。				
展開 (35分)	<p>3 興味を持っている学校名を挙げ、理由を発表する。 【発表する】</p> <p>4 興味を持っている学校についてどのようなことを更に知りたいか話し合う。 【話し合う】</p> <p>5 どの学校について調査するかを班で話し合う。 【話し合う】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味を持っている学校名を挙げさせ、理由を発表させる。</li> <li>進路を決定するために何を知りたいか、具体的な調査内容を話し合わせる。</li> <li>より詳しく調査できそうな学校を見つけさせる。</li> <li>発表を聞きながら、調査する学校を割り当てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味を持っている理由を具体的に言うことができる。</li> <li>兄が通っている。親が進める。やりたい部活がある。大学に進みたい。</li> <li>詳しく知りたいと思う事柄を班で話し合い、まとめて発表することができる。</li> <li>情報源を考えながら詳しく調査できそうな学校を発表する。親の出身校である。部活の先輩が通っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同様の意見の生徒がどれくらいいるか人数を確認しながら進める。</li> <li>ワークシートに書かせる。</li> <li>みんなで進路学習をするという意識作りのために、必要としている人のためにできるだけ詳しく調査しようとする意識を作る。</li> </ul>
終末 (7分)	<p>6 学習の振り返りをする。 【書く】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数名を指名し、考えたことを発表させる。(シートに記入させる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を振り返り、考えたことを言うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の不安を共有し、共に進路を切り開いていこうとする意欲を持つことができたか。</li> </ul>

## 第 2 学 年 学 級 活 動 指 導 案

日 時 平成 18 年 11 月 15 日 (水)

生 徒 2 年 C 組 男子 19 名

女子 18 名

計 37 名

指導者 笹淵 真代

### 1 題材名 「上級学校の種類と特徴」

### 2 題材設定の理由

#### (1) 題材について

生徒たちはこれまで、職場体験学習を通して、職業そのものに対する知識を学習するとともに、社会人としての心構えや資質についても学んできた。初めて出会った大人たちの中で精神的なプレッシャーを感じながらも、与えられた仕事を成し遂げた達成感と充実感を得ることができた。同時に、一人の大人として接してもらい、大人としての対応ができたことに自立の喜びを感じてきたようである。この体験学習は、いつの日か自立していく自分を思い描きながら、人生の先を見通すきっかけとなったことは言うまでもない。しかし、中学校卒業後、早急に社会に出て働く必要性のない生徒たちにとってこの職場体験は、進路選択を現実的に捉える機会とはなりにくかったのも事実である。

1 年後に受験を控え、「進学」と言う進路に対する意識は少しずつ高くなっている。現在の生徒たちにとっての現実的な進路学習とは、進学に対する目的をはっきりさせ、自分の特性や将来の見通しとの係わりで、進学希望校を具体的に検討していく方法を身に付けさせることにあると考える。昨今、批判の対象となっている進路指導を狭義にとらえた進学指導も、生徒たちの人生設計や自己分析との係わりで具体的に検討する方法を身に付けさせることで、重要な進路指導になりうると考える。

社会の構造もよく分からず生活している生徒たちにとって、上級学校の種類を学習することは現在の生徒が接する最も近い社会のシステムを学習することであり、それぞれの学校の特徴を知ることは、自分のニーズを自分自身に問いかけながらより自分に合ったものを選択していく過程を経験することにつながる。本題材は、今まで生徒が学習してきた「働くことの目的と意義」の上に立ち、自分の将来を見通しながら現実的に人生を選択していくための実践的な力を養う教材となるものである。

#### (2) 生徒の実態

略

### (3) 指導の構想

上記のような不安を軽減するためにも、生徒たちが進路選択に対してどのような不安や悩みを持っているかを共有する場面を設定し、さらにそれを解決するためにはどのような手立てが必要と思われるかを話し合う場面も設定したい。このような過程を通して、個々の進路選択という問題に対して、学級のみならず力を合わせて取り組んで行くと言う姿勢を作って行きたい。また、個々の願いを共有することで、お互いの学習を尊重し合う雰囲気を作ることが学級活動における進路学習の中で最も大切なことの一つであると考えられる。

本校の研究に係わり「将来をたくましく生き抜き、自己実現を目指す」生徒の姿を、自分の目標実現に向けて具体的に努力する生徒としてイメージした。本題材においては、自分が進路を選択するためにはどんな情報が必要であるかを明らかにし、それをどのようにして調べることができるかを考え、その結果を既知情報と関わらせて現実的に判断していく力を持った生徒を育成したいと考えている。この過程は、「将来設計能力」「情報収集・探索能力」「意思決定能力」「人間関係形成能力」の育成に直接的につながるものである。

## 3 指導計画（全5時間）

この題材では、主に「将来設計能力」「意思決定能力」「情報収集・探索能力」「人間関係形成能力」の育成を図る。

(1) 将来の夢は中学校卒業後の進路の見通しについて話し合う。(0.5時間)

上級学校について知りたいと思う内容について話し合う。(0.5時間)

(2) 身近な高校についてどのように調査するか計画を立てる。(0.5時間)

身近な高校について調査する。(1.5時間)

(3) 調査結果を発表し合う。(2時間 本時1時間目)

#### 【情報収集・探索能力】

さまざまな上級学校に興味を持ち、情報を収集したり、交換・共有することを通して、自分の適性との係わりを考え、さらに詳しく学習しようとする。

#### 【意思決定能力】

興味や好みだけでなく、自分の特徴、能力、適正などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に努力すべく行動を決定することができる。

#### 【将来設計能力】

将来の夢の実現に向けて、何を学びどのように自分を成長させるかを考えながら、上級学校を選択するための具体的なイメージを持つことができる。

#### 【人間関係形成能力】

他の願いや悩みを共有し、進路実現に向けてともに努力しようとする。

## 4 本時の指導

### (1) 本時のねらい

将来の夢や中学校卒業後の進路の見通しを話し合うことで、自分の進路の目標をより明確に持つことができる。

身近な高等学校についての調査結果を聞きながら、高校選択についてさまざまな視点を持つことができる。

各自の進路実現に向けて、みんなで共通に理解しながら取り組もうとする意欲を持つことができる。



(2) 本時の展開

段階 (時間)	学習内容	学習活動		指導上の留意点 評価
		教師の働きかけ	生徒の活動	
導  入 (10分)	1. 各自の将来の夢を発表する。 【発表する】	・生徒数名を指名し、将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを発表させる。	・自分の将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを言うことができる。	・進路計画が定まっていない生徒には、自分の進路について考えるきっかけとする。 ・ほとんどの生徒が高校進学を希望していることを確認し、高校について学習することの意義を再度確認させる。
	2. 上級学校について知りたいと思う事項を発表する。 【発表する】	・生徒数名を指名し、身近な高校について知りたいと思う事項を発表させる。	・身近な高校について知りたいと思う事項を言うことができる。 部活動について 学習成績について 卒業後の進路について 学習内容について	
身近な高等学校について調べたことを発表し合い、自分の進路選択の参考にしよう。				
展  開  (30分)	3. 班毎に調査結果を発表する。 【発表する】  【書く】  【発表する】	・3つの班を指名し、調査結果を発表させる。  ・各班の発表が終わるごとに、感想や更なる疑問点を書かせ発表させる。	・調査結果を発表することができる。  ・質問事項には可能な範囲で答えることができる。	・シートにメモを取りながら聞かせる。さらなる疑問点を書かせるようにする。
終  末 (10分)	4. 発表内容を聞き、考えたことを発表し合う。 【書く】  【発表する】	・数名を指名し、3つの班の発表を聞いて、考えたことを発表させる。(シートに記入させる。) ・調査してみて、感じたことを発表させる。	・3つの班の発表内容を振り返り、考えたことを言うことができる。また、実際に調査して感じたことを言うことができる。	発表方法ではなく、発表内容について感想を言うことができたか。  どのようなことがさらに分かれば自分の進路決定に役立つかを言うことができたか。

## 第 2 学 年 学 級 活 動 指 導 案

日 時 平成 18 年 11 月 15 日 (水)

生 徒 2 年 D 組 男子 18 名

女子 18 名

計 36 名

指導者 小山田 勉美

### 1 題材名 「上級学校の種類と特徴」

### 2 題材設定の理由

#### (1) 題材について

生徒たちはこれまで、職場体験学習を通して、職業そのものに対する知識を学習するとともに、社会人としての心構えや資質についても学んできた。初めて出会った大人たちの中で精神的なプレッシャーを感じながらも、与えられた仕事を成し遂げた達成感と充実感を得ることができた。同時に、一人の大人として接してもらい、大人としての対応ができたことに自立の喜びを感じてきたようである。この体験学習は、いつの日か自立していく自分を思い描きながら、人生の先を見通すきっかけとなったことは言うまでもない。しかし、中学校卒業後、早急に社会に出て働く必要性のない生徒たちにとってこの職場体験は、進路選択を現実的に捉える機会とはなりにくかったのも事実である。

1 年後に受験を控え、「進学」と言う進路に対する意識は少しずつ高くなっている。現在の生徒たちにとっての現実的な進路学習とは、進学に対する目的をはっきりさせ、自分の特性や将来の見通しを持ち、進学希望校を具体的に検討していく方法を身に付けさせることにあると考える。昨今、批判の対象となっている進路指導を狭義にとらえた進学指導も、生徒たちの人生設計や自己分析との係わりで具体的に検討する方法を身に付けさせることで、重要な進路指導になり得ると考える。

社会の構造をよく分からず生活している生徒たちにとって、上級学校の種類を学習することは現在の生徒が接する最も近い社会のシステムを学習することであり、それぞれの学校の特徴を知ることは、自分のニーズを自分自身に問いかけながらより自分に合ったものを選択していく過程を経験することにつながる。本題材は、今まで生徒が学習してきた「働くことの目的と意義」の上に立ち、自分の将来を見通しながら現実的に人生を選択していくための実践的な力を養う教材となるものである。

#### (2) 生徒の実態

略

### (3) 指導の構想

上記のような不安を軽減するためにも、生徒たちが進路選択に対してどのような不安や悩みを持っているかを共有する場面を設定し、さらにそれを解決するためにはどのような手立てが必要と思われるかを話し合う場面も設定したい。このような過程を通して、個々の進路選択という問題に対して、学級のみんなが力を合わせて取り組んで行くと言う姿勢を作って行きたい。また、個々の願いを共有することで、お互いの学習を尊重し合う雰囲気を作ることが学級活動における進路学習の中で最も大切なことの一つであると考え。

本校の研究に係わり「将来をたくましく生き抜き、自己実現を目指す」生徒の姿を、自分の目標実現に向けて具体的に努力する生徒としてイメージした。本題材においては、自分が進路を選択するためにはどんな情報が必要であるかを明らかにし、それをどのようにして調べることができるかを考え、その結果を既知情報と関わらせて現実的に判断していく力を持った生徒を育成したいと考えている。この過程は、「将来設計能力」「情報収集・探索能力」「意思決定能力」「人間関係形成能力」「人間関係形成能力」の育成に直接的につながるものである。

## 3 指導計画（全5時間）

この題材では、主に「将来設計能力」「意思決定能力」「情報収集・探索能力」「人間関係形成能力」の育成を図る。

(1) 将来の夢は中学校卒業後の進路の見通しについて話し合う。(0.5時間)

上級学校について知りたいと思う内容について話し合う。(0.5時間)

(2) 身近な高校についてどのように調査するか計画を立てる。(0.5時間)

身近な高校について調査する。(1.5時間)

(3) 調査結果を発表し合う。(2時間 本時1時間目)

#### 【情報収集・探索能力】

さまざまな上級学校に興味を持ち、情報を収集したり、交換・共有することを通して、自分の適性との係わりを考え、さらに詳しく学習しようとする。

#### 【意思決定能力】

興味や好みだけでなく、自分の特徴、能力、適正などを考慮し、現実を踏まえながら夢の実現に努力すべく行動を決定することができる。

#### 【将来設計能力】

将来の夢の実現に向けて、何を学びどのように自分を成長させるかを考えながら、上級学校を選択するための具体的なイメージを持つことができる。

#### 【人間関係形成能力】

他の願いや悩みを共有し、進路実現に向けてともに努力しようとする。

## 4 本時の指導

### (1) 本時のねらい

将来の夢や中学校卒業後の進路の見通しを話し合うことで、自分の進路の目標をより明確に持つことができる。

身近な高等学校についての調査結果を聞きながら、高校選択についてさまざまな視点を持つことができる。

各自の進路実現に向けて、みんなで共通に理解しながら取り組もうとする意欲を持つことができる。

(2) 本時の展開

段階 (時間)	学習内容	学習活動		指導上の留意点 評価
		教師の働きかけ	生徒の活動	
導 入  (10分)	1. 各自の将来の夢を発表する。 【発表する】	・生徒数名を指名し、将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを発表させる。	・自分の将来の夢や中学校卒業後の進路についての見通しを言うことができる。	・進路計画が定まっていない生徒には、自分の進路について考えるきっかけとする。
	2. 上級学校について知りたいと思う事項を発表する。 【発表する】	・生徒数名を指名し、身近な高校について知りたいと思う事項を発表させる。	・身近な高校について知りたいと思う事項を言うことができる。 部活動について 学習成績について 卒業後の進路について 学習内容について	・ほとんどの生徒が高校進学を希望していることを確認し、高校について学習することの意義を再度確認させる。
身近な高等学校について調べたことを発表し合い、自分の進路選択の参考にしよう。				
展 開  (30分)	3. 班毎に調査結果を発表する。 【発表する】  【書く】  【発表する】	・3つの班を指名し、調査結果を発表させる。  ・各班の発表が終わるごとに、感想や更なる疑問点を書かせ発表させる。	・調査結果を発表することができる。  ・質問事項には可能な範囲で答えることができる。	・シートにメモを取りながら聞かせる。さらなる疑問点を書かせるようにする。
終 末 (10分)	4. 発表内容を聞き、考えたことを発表し合う。 【書く】  【発表する】	・数名を指名し、3つの班の発表を聞いて、考えたことを発表させる。(シートに記入させる。) ・調査してみて、感じたことを発表させる。	・3つの班の発表内容を振り返り、考えたことを言うことができる。また、実際に調査して感じたことを言うことができる。	発表方法ではなく、発表内容について感想を言うことができたか。  どのようなことがさらに分かれば自分の進路決定に役立つかを言うことができたか。